

臨床研修終了にあたり

臨床研修終了にあたり

Aコース臨床研修歯科医 遠藤 麻里奈

このたび、臨床研修終了にあたりというテーマで原稿を書かせていただくことになりました、研修歯科医の遠藤麻里奈です。私は、もともと文系の大学に進み、中退して長崎大学歯学部に入り直し、卒業後、東京で2年間の国試浪人の末、ようやく歯科医師になる事が出来ました。

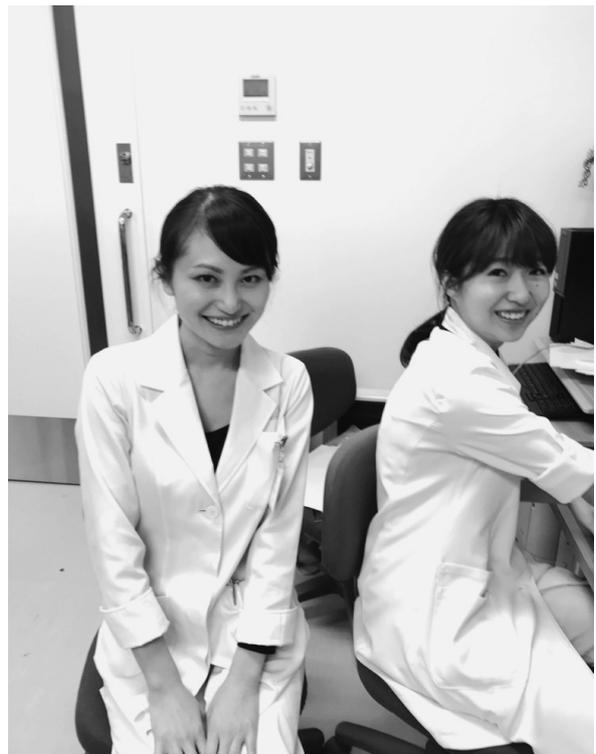
ここ近年は、正直国試に受かることで手一杯だったので、歯科医師になってからのビジョンについて、自分自身について見つめ直す心の余裕がほとんどありませんでした。なので、マッチング先も多くを選択肢に入れる様なことはしていませんでしたが、なにか一つの分野にいきなり特化するのではなく、まずは一般歯科で幅広く臨床経験を養いたい、遠回りして歯科医師になった分、人一倍久しぶりに臨床の場に出るので、しっかりと基礎から指導していただける環境のもとで研修医をしたい、という思いで、新潟大学歯学部出身の友人や先輩の勧めもあって、地元石川県にも近い歯学部附属病院である、新潟大学医歯学総合病院でのAコースを選択しました。

この1年間を振り返ってみると、最初は何もかも分からない事だらけでとまどいや不安も大きく、全くの新しい環境に適応するまで時間がかかってしまいました。しかし、その分、保存、補綴をはじめとした各分野の様々な臨床を経験させて頂いただけでなく、患者さんやスタッフとの接

し方、医療人・社会人としてのあり方、本当に学ぶ事の多い実りある1年間で、想像以上にあっという間でした。同時に、このプログラムで研修することが出来て、幸運だったと思います。

藤井教授、指導医の伊藤先生、その他総合診療部の先生方やスタッフの皆様には本当にお世話になりました。すべてが未経験で右も左もわからない私を様々な面でフォローしてくださり、どんな簡単な事であっても、いつでも優しく熱心に指導していただきました。感謝を申し上げます。

最後に、短い期間でしたが、ありがとうございました。



臨床研修終了にあたり

Bコース臨床研修歯科医 小 貴 和佳奈

本学47期卒後、臨床研修歯科医としてお世話になっております、小貴です。ちょうど一年前（現在2018年2月半ばです）国試受験の直後には歯学部卒業にあたっての原稿を書かせて頂きまして、早いものだなあとしみじみと感じています。

研修先を決めるにあたり一般歯科治療をしっかりやりたい気持ちもありましたが、臨床実習で興味を持ち、もっと勉強したいと思っていた摂食嚥下や口腔外科を学べる環境が整っているBコース（協力型施設、学内専門科で半年ずつの研修プログラム）に魅力を感じ、私は長岡赤十字病院歯科口腔外科と摂食嚥下リハビリテーション科で研修させて頂きました。

長岡赤十字病院は中越の基幹病院で、埋伏智歯抜歯をはじめ顎関節症、舌痛症、嚢胞、良性・悪性腫瘍と幅広い口腔外科症例を経験しました。地域の開業歯科医の先生方との紹介状のやり取りも多く、地域医療連携も学べました。先生は「この先、歯科医師として働く上で赤信号を渡すことは

決していないように」と指導して下さいました。

摂食嚥下リハビリテーション科では、歯科医・言語聴覚士・歯科衛生士がチームとなって行う入院患者さんの摂食嚥下障害に対する介入（摂食嚥下機能評価、嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を用いた精査、口腔ケア、間接・直接訓練、他科との連携など）や、高齢者施設への往診、ドライマウス・味覚障害の診療などを経験しました。最も考えさせられたのは『おいしく』『食べること』がいかに関わりのQOLに関わるか、ということでした。また医師からの依頼をもとにした介入が大半ですが、摂食嚥下リハビリについても歯科治療についても必要性を感じない患者さんも多く、難しさを感じました。原疾患も症状も経過も多岐に渡り、想像以上にわからない！で溢れていましたが、多くのことを学ばせて頂きました。

半年ずつの研修はあっという間で、まだまだ足りない…！と思いながら修了を迎えますが、この一年間で経験させて頂いたことは全てがとても有意義で、今後の自分の選択に大きな影響となると確信しています。環境を与え、指導して下さった皆様には心から感謝しています。全てを糧に邁進する所存です。

